



「高校生からの古典読本」

電車やバスで通学している人たちは、その通学の電車やバスの中で何をしているのだろうか？ おおかた「速単」とかになるのだろうか？ あるいは、教科書を読んで予習をしているとか？ 運良く座れたら居眠り？ はたまたケータイで音楽またはゲーム？ スマホでネット？ LINE？ まさかビジネスパーソンみたいに新聞を読んでいるとか？(笑)

私はもっぱら読書である。最近ではアメリカ人になったせい（ローガン＝老眼）、暗い地下鉄車内ではなかなか読み進めないこともあって、字の拡大表示などができるアマゾンのキンドル・ホワイトペーパーも買って見たのだが、あいにくと読みたいコンテンツがなかなかない。先日はついつい「進撃の巨人」などをダウンロードしてしまい、こんなはずではなかったと反省したばかり（笑）。やはりモノとしての書籍が中心である。

本は雑誌も含めていろいろ読むが、君たちの読書との大きな違いは、古典（古文）も読むということだろう。で、ちょうど今読んでいるのが、『高校生からの古典読本』（平凡社ライブラリー、2012）という本。タイトルから分かりますとおり、高校生をもターゲットにしながら、文語体の文章の魅力を伝えようとする意図のもとに編集された本である。検定を前提とした教科書ではお目にかかれないような作品、例えば思想的なもの、差別的なもの、残虐なもの、エロティックなもの、スカトロジックなものなども採り上げられていて、なかなか魅力的な（笑）本である。原文

があり、解説があって、さらに難しい作品には現代語訳も付されている。

ただし、編集をしたのが大学の先生4人であるためか、やはりちょっと高級すぎて、高校生が読むと、ますます古典嫌いを増やしそうな作品ラインナップである。だって、（この本の冒頭の「はじめに」には、どの作品から読み始めても良いと断ってあるとはいうものの）一番最初に置かれた作品が『源氏物語』「朧月夜との逢瀬」である。タイトル「逢瀬」で興味が高まる諸君もいるだろうが（笑）、残念ながら原文はやはり難しいと言わざるをえない。二つ目が万葉集、三つ目も和歌、四つ目の作品は『蜻蛉日記』（「嘆きつつ一人寝る夜の…」）と、かなり難物が連続している。5つ目にやっと『発心集』（鴨長明作）という比較的読みやすい説話作品が出てきて、しかも「母、むすめを妬み、手の指蛇になること」という面白そうな内容になるのだが（実際はあまり面白くはないが…）、まあ、最初から読み出すと、そこにいきつくまでが大変なのである。『徒然草』の中で採り上げられてる章段が「花は盛りに」であることをみても、ちょっと作品選択のセンスには「？」がついてしまうのではないだろうか。

しかし、それでもこういう本に挑戦してみようという果敢な高校生の登場を期待したい。「高校生から～」となると？？？ではあるのだが、ツボを押さえた解説も含め、古典の文章の精髓を丁寧に伝えてくれる良本であることは間違いない。